

多様な市民生活を育み

都市価値の向上を目指して

総務経済委員会

総務経済委員会では、10月3日～5日に、高松市、草津市、大垣市を視察しました。ここでは、草津市の視察内容を報告します。

●地域まちづくりセンター

草津市では、これまでの市民センター・公民館からの機能転換を行い、住民が主役のまちづくりを実践する地域のまちづくりの拠点施設として「地域まちづくりセンター」を設置しました。自治会とは別の、地域を代表する総合的なまちづくり組織「まちづくり協議会」の活動拠点、コミュニティビジネスの場、地域福祉との連携拠点、生涯学習の場としての生きがいづくりの拠点などになっていました。

《行政視察先と内容》

- 香川県高松市 地域コミュニティ継続計画による地区防災の取り組み
- 滋賀県草津市 地域まちづくりセンター
- 岐阜県大垣市 移住・定住ポータル「大垣暮らしのすすめ」



現地で生の声を聞くことができました

●地域まちづくりセンターへ移行した理由

急速な高齢化と少子化が進行し、人口構成が急激に変化することによって自治体の財源や人材に制約が生じることが予想される中、今後ますます多様化する市民の要望に対応し、将来に渡って誰もが快適に住み続けることができる地域を維持するため、住民が主役のまちづくり活動の拠点が必要でした。

●地域まちづくりセンターの条例策定で留意した点

まちづくり協議会を主体とした協働のまちづくりの拠点としての設置目的を条例に盛り込んだほか、条例の施行前と後で、センター利用者には不利益が生じたり、社会の機能が縮小したりしないよう留意していました。

●視察成果を行政に活かす

今回の視察で得たさまざまな成果を市民生活に反映できるように、当委員会としても議論を深めていきます。

狭山市を安全・安心で

住みやすいまちに

建設環境委員会

建設環境委員会では、10月4日に八潮市、10・11日に府中市、堺市を視察しました。ここでは、八潮市と堺市の視察内容を報告します。

●八潮市の空き家等対策の取り組み

【計画策定の背景と目的】
空家特措法が全面施行され、空き家対策などを適切に行うことが市に求められる状況を踏まえ、八潮市では、空き家に限らず使用中の建物でも、適切な管理がされないければ対象とするなど、市民が安全・安心に暮らせる良好なまちづくりを目指しています。

【基本方針】

- 《行政視察先と内容》
- 埼玉県八潮市 空き家等対策の取り組み
 - 東京都府中市 インフラマネジメント計画
 - 大阪府堺市 環境モデル都市、省エネルギー生活、堺市クリーンセンター臨海工場整備事業

問題が顕在化する前から十分な対策を講じることを基本的なスタンスとして、「予防対策」に重点をおきつつ、著しい管理不全状態に陥った場合にも、必要な措置を迅速

かつ的確に行うことを方針としています。

【今後の方針】

▼所有者への意識づけ ▼地域との協働による取り組み ▼関係団体との連携による取り組み



熱心な質疑が行われました

●堺市環境モデル都市

堺市は、「堺市環境モデル都市行動計画」を策定し、快適な暮らしと街のにぎわいが継続する低炭素都市「クールシティ堺」を掲げ各施策を展開しています。

【基本的な視点】

▼「産業構造の転換」、経済成長と環境保全の両立を実現 ▼「都市構造の変革」、低炭素都市の形成を促す ▼「環境文化の創造」、市民、事業者が主体的に寄与する

●視察を終えて

先進市の視察で学んだ点を、狭山市のよりよいまちづくりに活かしていきたいと考えています。

健康づくりの推進は

地域の活性化から

文教厚生委員会

文教厚生委員会では、10月24・25日に、生涯スポーツや健康づくりの推進などを視察するため、かほく市と富山市を訪問しました。

●学校施設の複合化とスポーツ振興

かほく市では、旧宇ノ気町にバスケケットボールコート2面を有する体育館や総合型地域スポーツクラブの活動拠点がなかったことから、中学校改築計画で体育施設との複合化を計画し、市立宇ノ気体育館を整備しています。

●地域包括ケアシステム構築

富山まちなか総合ケアセンターは、子育て支援や在宅医療、地域コミュニティの醸成などを推進するための事業を展開しており、乳幼児

《行政視察先と内容》

- 石川県かほく市 学校施設の複合化とスポーツ振興
- 富山県富山市 富山市まちなか総合ケアセンター



施設の有効利用を図った複合施設

児から高齢者、障害者など、すべての地域住民が安心して健やかに生活できるための施設と感じました。

また、総曲輪レガートスクエア内の民間施設との協働事業では、行政や大学、企業、地域住民などが一体的、持続的に健康なまちづくりに取り組む仕組みの創出を目指していました。

●視察を終えて

狭山市でも、公共施設の複合化など、さまざまな視点で考えていく必要性を再確認しました。地域住民を取り巻く環境の整備は大変重要であることから、引き続き調査・研究に取り組み、提言・要望につなげていきます。

行政視 察報告

「分かりやすい」として「開かれた」議会改革に向けて

議会運営委員会

市議会を分かりやすく、そして身近に感じていただくために、昨年6月定例会より開始したインターネットライブ配信に加え、議会運営委員会では、「社会のICT化の流れを踏まえたタブレット端末の活用」や、「議員提案による政策条例の検討」にも着手しており、今後の検討の基本となる先進事例を視察しました。

●政策立案機能の充実

四日市市議会では、市民からの意見を広く聴取する「議会モニター制度」のほか、「議員政策研究会」を設置しています。全議員がさまざまな課題に対して共通認識を図り、政策立案機能のさらなる向上に取り組むことで「四日市市安全なまちづくり条例」など、15件の条例を制定しました。

●タブレット端末の活用で効率の向上

鳥羽市議会では、市民団体と地域課題を共有する「TOBAMIRAイトーク」のほか、タブレット端末の活用でペーパーレス化や郵送代

《行政視察先と内容》

- 三重県四日市市 議員提案による政策条例の制定・議会モニター制度
- 三重県鳥羽市 ICTを活用した議会運営・TOBAミライトーク

の削減、事務負担の軽減に取り組むとともに、本会議場への持ち込みを許可し、議場内のモニター2台に画像を表示することで、より分かりやすい議会運営を行っていました。

●さらなる議会改革に向けて

議会をより身近に感じていただくことと、ICTの活用により分かりやすい議会運営を目指して、議会改革を進めていきます。



資料をモニターに表示（鳥羽市議会）